

「語り合うことの喜び」(2020.2.16)

見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。(詩編 133-1)

私たちは主の恵みによって召され、横手教会に集っている。主の体である教会に連なる部分として、主にあってひとつである。ところが、意外に長く教会に集い、礼拝を共にしている間柄なのに、お互いのことがよくわからない、という声をよく聞くことがある。その原因の一つに、一人ひとりが自分のことを話す場が少ない、ということがあるのでは、と思う。

そこで、月ごとに誕生日と受洗日を迎えられた方々を第2聖日の礼拝後、お祝いすることにした。時として自分も忘れてしまうような時もあるが、少しでも自分のことを語り、共有してもらうことは嬉しいことである。回数を重ねてもマンネリにならないように工夫して続けたいと思う。



先日2月誕生&受洗記念会を開いたが、あいにく対象となったお二人が都合で出席できなかった。それで、初めにお二人の近況を報告し、とりなしのお祈りして終わることとなった。このようなことも当然ありうることである。せっかく集まった時なので、ということで、週末から二夜連続で行われる「教会ミニかまくらキャンドルナイト」について話し合った。花束を渡すタイミングや奉仕者の確認、接待で提供するものや方法の確認、お互いの奉仕の連携の確認など。その中で、演奏者の接待の在り方に続いて、奉仕者の夕食をどうすべきか話題になった。うかつにもふと脳裏をよぎった案を口走ってしまった。「カレーライスを作って、自由に食べられるようにしたら?」「※エ~※エ~※エ~」と一斉に非難の雨あられ。すぐ撤回させてもらい、サンドイッチとおにぎりに落ち着いた。

その夜、なぜか嬉しかった。なぜだろうと考え・・・気づいた。どうにかしてこの教会の営みが祝福されるようにとみんなが心をひとつにして話し合っている、その姿だ。宣教のためにみんなが心をひとつにして忌憚なく話し合える、このことがこの営みの成功以上に喜ばしいことと感じられたのである。上掲の詩編記者の喜びが響いてきた。

結果以上にそのプロセスを大切に、をお互い心掛けたいと思う。